

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.18 2008年10月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

VTV ジャパン、H.264SVC 準拠のテレビ会議システムで米 Vidyo 社と日本国内販売で提携

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、H.264SVC 準拠のテレビ会議システムで米国の Vidyo(ヴィディオ)社と販売代理店契約を締結した。「H.264SVC 準拠のテレビ会議システムは、米国ビデオ社が業界で初めて開発したもので、ヴィディオ・ブランドでの国内販売は当社が初めてとなる。」(VTV ジャパン 代表取締役 栢野 正典 氏)

H.264SVC は、2007年11月にITU-Tにおいて勧告された最新の映像標準。SVC(Scalable Video Coding)はひとつのビットストリームに複数のフレームレート・解像度を多重化できるようにH.264を拡張した規格。

IP 上での多地点でのテレビ会議システムの利用が一般的になってきたが、多地点で各拠点が接続する場合以下のような問題が起こる可能性がある。

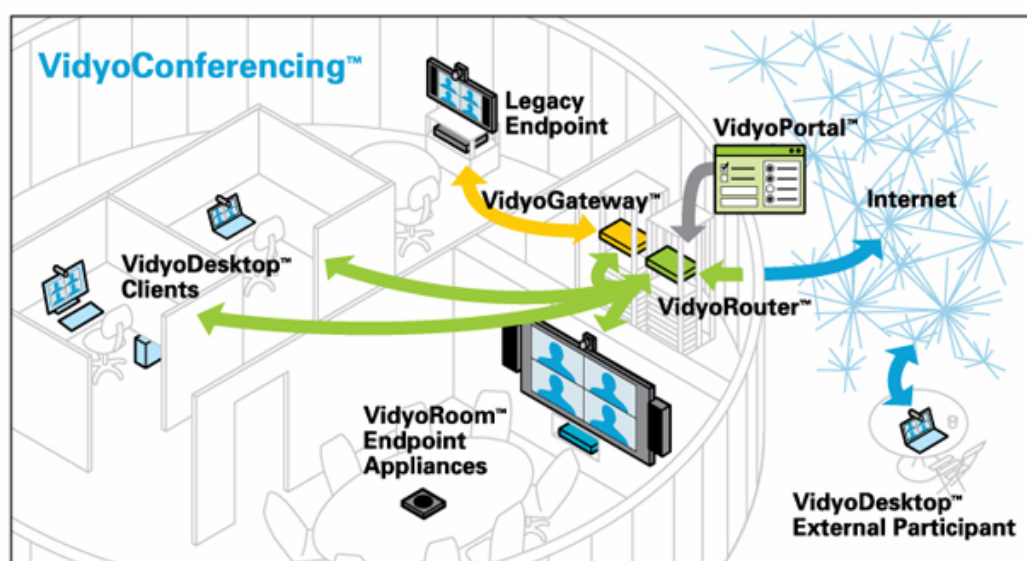
(1) 一番帯域が狭い端末の帯域にその他の端末が合わせるため全端末の映像品質が下がる(逆に言えば端末毎の性能を十分に活用できない)。

(2) どこか一ヶ所でも一時的なネットワークの不具合(パケットロスなど)が発生すると、全拠点到映像の劣化による映像と音声のタイムラグが発生したり、最悪の場合多地点接続自体が強制終了したりする可能性があるという。「こういった不具合にIPテレビ会議システムが原理的に対処できないのは、ISDN時代の通信の制限をIPに拡張したものを利用しているからだ。ISDNの帯域は固定されているものであり、接続は1対1という基本的な考えが

あるが、一方IPの帯域は変動するものであり、接続は多対多を許容している。そうすると帯域が変動した場合ISDNの考え方が残る現行のIPテレビ会議システムはうまく対応できない問題が起こる。ヴィディオ社のシステムは、多地点接続装置の根本的な設計の変更と接続帯域のリアルタイム監視と送出帯域のコントロールという観点からこの問題に正面から取り組んだ製品を開発した。」(同 栢野 正典 氏)

これによって、多地点環境において、ある端末が接続している個別のネットワークトラブルが、他のネットワークに接続している端末に影響しないということや、従来のシステムでは、2~3%のパケットロスでも映像や音声に遅延が発生するが、20%のパケットロスまで影響を受けないといった効果などがあると説明する。「映像、音声の品質の劣化の原因のひとつになっていたが、ヴィディオ社のシステムはこれらの問題を解消できると考えている。」(同 栢野 正典 氏)

ヴィディオ社のテレビ会議システムは、ユーザ認証や端末管理、多地点接続を行うシステムから、専用端末、デスクトップまで提供する。それら全て同じソフトウェアコード



ベースのため、HD クラス(720p 60fps)の高解像度のテレビ会議を専用端末同士だけでなく、デスクトップPCまで拡張させることができたという。また既存の H.323 テレビ会議システムとは、同社が提供するゲートウェーで相互に接続が可能だ。

「当社はこれまでのテレビ会議システムが抱えていた遅延や IP ネットワーク品質の依存性などの技術的課題を解決し、本格的な映像コミュニケーションの鍵となるビデオ社のテクノロジーの先進性におおいに期待している。」(同 栢野正典 氏)

VTV ジャパンは、10月1日より販売を開始し、1年間で20ユーザ 2億円の売上を販売目標としている。

ビデオ社は、2005年に設立。製品を開発したメンバーには、ラドビジョン社でゲートキーパーや多地点接続装置を開発していたビデオ社 CEO Ofer Shapiro (オフエル・シャピロ)氏を始めとして、SIP や H.264 MPEG4-AVC の開発にかかわってきた人物が入っている。日本担当のカントリーマネージャーは、楠本博茂氏。

日本 HP、マネージドサービスで提供する Halo テレプレゼンスシステム、2席タイプ/4席タイプなどコンパクトシステムを提供

日本ヒューレット・パッカード株式会社(東京都千代田区)は、「HP Halo Collaboration Meeting Room (HP ハロー・コラボレーション・ミーティング・ルーム)」と「HP Halo Collaboration Center-Two Seater/Four Seater (HP ハロー・コラボレーション・センター 2席タイプ/4席タイプ)」を新たに日本国内に向けて発表した。

同社では、すでに部屋全体の施工を含めたスタジオタイプのテレプレゼンスシステム「HP Halo Collaboration Studio (HP ハロー・コラボレーション・スタジオ)」を2006年8月(日本発表)以来販売してきた。イマーシブ(immersive)環境を作り出すために、Halo は、モニターと席の距離や、3台のプラズマディスプレイを使うことでパノラマ表示したり、カメラやライトの輝度やアングル、部屋の内装や音響などに工夫したりすることで自然なテレプレゼンスによる会議が行えるようにしている。

「1拠点あたり数千万円するとはいえ、多国籍企業など大企業を中心に Halo は認知され多数採用されてきた。Halo Studio は、大幅な部屋の施工工事が必要となるため、設置の手間やコスト、期間の面で難しい点があったが、今回のシステムの特徴は、Halo Studio の映像や音声、データ共有などの性能や機能を継承しつつ、スペースがとれれば普通の部屋で十分設置できるコンパクトなシステムになっている。もちろん、電話会議システムや既存の H.323 あるいは H.320 のビデオ会議システムとも通信できる。マニュアルいらずの簡単な操作もそのまま同じだ。」(米 HP Halo プロダクト・マーケティング・マネージャ Greg Campbell 氏)

HP Halo Collaboration Meeting Room は、Halo Studio をコンパクト化したシステムで、それらの設置に十分な部屋の広さと高さがあれば、部屋の施工工事をあまり伴わずにシステムの組み立てと回線接続を行うのみで導入できる。

「回線(T3 回線)がすでに準備されていて、部屋の内装工事が特に必要なければ、システムを搬入して当社の専門チームが組み立て作業を行い、その後接続試験、納品という流れになる。この工程は、問題がなければ4、5日ほどで完了させることが可能だ。」(米 HP Greg Campbell 氏)

設置の容易さに加え、さらにもうひとつの特長として、HP Halo Collaboration Meeting Room は、画面は、Halo Studio と同じ 50 インチプラズマディスプレイを3台搭載しているが、テーブルと席は参加者数に応じてカスタマイズできる点だ。「Halo Studio は6席固定だが、Meeting Room の方は、テーブルと席を増やすことで大人数にも対応できる。」(米 HP Greg Campbell 氏)

しかし広い部屋の一部でこのシステム標準の6人掛けで使用する場合、スペースが余り、音響が拡散するため良質の音質環境を得るのが難しくなる可能性がある。それに対応するため、同社では、オプションで「Halo Back Wall(ハロー・バック・ウォール)」を提供している。これは背壁で、参加者の後方に設置することで、適度な音響環境をつくりだすとともに、後ろから来る不要な光源を遮ること

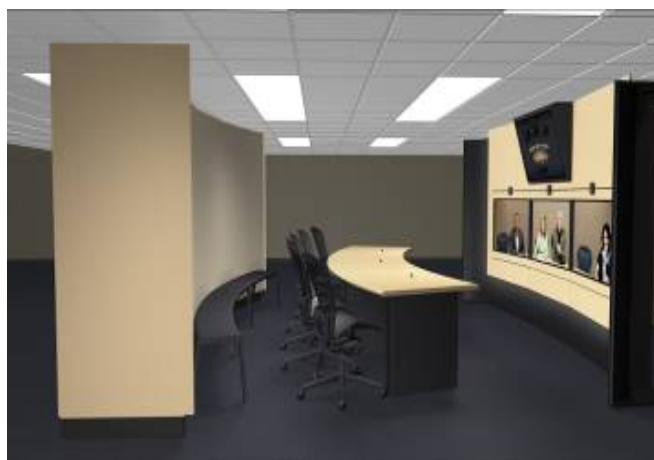
も可能だ。

その他のオプションとしては、蛍光などのライト設置やプロジェクタがある。ライトを設置することで、顔の陰影にコントラストがでて相手側に自然に見える効果を持つ。

またプロジェクタは、テーブルの真上の天井に設置されるシーリングタイプ。シーリングプロジェクタの下に共有する書類などを置くと、自分側と相手側のデータ共有画面にその書類を表示させることが可能だ。



HP Halo Collaboration Studio



HP Halo Collaboration Meeting Room

【Halo の価格表】

	初期費用	月額費用
Halo Studio	\$349,000	\$18,000～(US)
Meeting Room	\$249,000	\$20,000～(日本)
Collaboration	\$120,000(2 席)	\$12,000～(US)
Center	\$135,000(4 席)	\$15,000～(日本)

*費用は米ドル計算。

*HP Halo Collaboration Studio と HP Halo Collaboration Meeting

Room の月額費用は同じ額。

* Collaboration Center の 2 席仕様と 4 席仕様の月額費用は同じ額。



HP Halo Collaboration Center 2 席仕様タイプ



HP Halo Collaboration Center 4 席仕様タイプ

一方、HP Halo Collaboration Center-Two Seater/Four Seater は、設置スペースが Halo Studio の約半分で設置でき、2 席タイプと 4 席タイプを提供するパーソナルテレプレゼンスシステム。「数人タイプのテレプレゼンスシステムは当初から要望が強かった。」(日本 HP IPG Halo ビジネス推進部 部長 石山泰律氏)

ディスプレイは、1 画面だが 65 インチサイズ。また上部にあるデータを表示するディスプレイは、42 インチ。相手を表示する画面は 1 台のため 4 拠点での多地点でのテレプレゼンス会議の場合、1 画面の中に 3 カ所が表示される方法になっている。複数拠点を 1 画面で表示するため、ディスプレイサイズを Halo Studio と Meeting Room に比べ

若干大きくした。

ヒューレット・パッカードとしては、今後ともテレプレゼンスシステムの事業を積極的に展開していく考えだ。その中で今後の性能や機能、そしてサービスの拡充等を検討しているという。

「Halo はワールドワイドに 150 システム近くを既に設置。キャノンや東芝など日本企業でも導入が広がっている。また HP 社内ワールドワイドに現在 57 システムが稼働しており、来年末までに 150 システムに増やす計画だ。またロードマップとしては、ストリーミング配信機能なども検討している。」(日本 HP 石山泰律氏)

「現在テレプレゼンス市場では、当社を含め複数のメーカーが競争している。それぞれ H.323 など既存のビデオ会議システムとの相互接続は進めているが、テレプレゼンスメーカー同士の横の相互接続はこれからの状況であるので当社としては積極的にその辺の相互接続も取り組んでいる。」(米 HP Greg Campbell 氏)

日本国内では現在、日本 HP 市ヶ谷事業所と荻窪事業所でこの Halo システムのデモ環境が提供されている。デモは海外の HP 事業所との接続にも対応している。

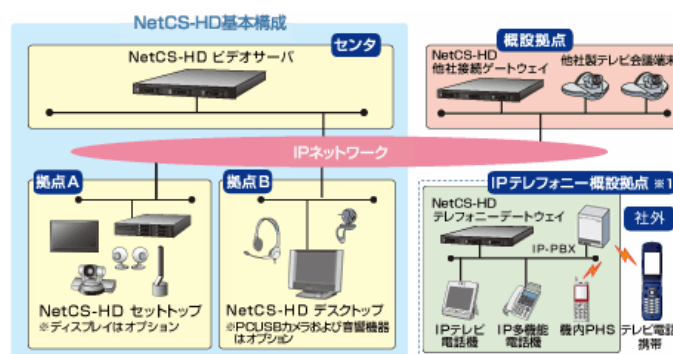
*Halo 特集レポート Vol.8 No.7 2006 年 3 月 10 日号 p3-p9

*Halo 日本発売 Vol.8 No.24 2006 年 9 月 20 日号 p1-p2

*相互接続/サービス拡充 Vol.10 No.1 2006 年 1 月 15 日号 p5-p7 その他

日立コミュニケーションテクノロジーの NetCS series、ハイデフィニション(HD)、H.264SVC、ASP サービスも計画

株式会社日立コミュニケーションテクノロジー(東京都品川区)は、IP ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series(ネットシーエス シリーズ)」に、「NetCS-HD(ネットシーエス HD)」をラインナップし、10 月 1 日より販売開始した。7 月に製品発表されていたもの。出荷は 10 月 31 日から。



NetCS-HD システム構成例

NetCS-HD は、HD(ハイデフィニション)画質に対応するとともに、ITU-T で 2007 年に勧告された最新の映像コーデック H.264SVC を採用。H.264SVC は、映像データを階層化して送受信することでパケットロスによる品質の劣化を抑制する仕組みが実装されており、これにより、映像の乱れや音途切れを大幅に軽減する効果がある。

また、今までのビデオ会議で必要であった多地点接続装置(MCU)を使用せず、独自のビデオサーバにより多地点会議を実現するもので、従来のビデオ会議では実現できなかった低遅延時間で映像・音声送受信が実現されている。最大 200 端末の同時接続が可能。

その他では、IP-PBX との連携によって、内線・外線電話からの音声参加や自席パソコンのソフトフォンからビデオ会議が行えるとともに、他社製のビデオ会議端末との接続が可能という。



NetCS-HD セットトップ

製品としては、「NetCS-HD ビデオサーバ」、「NetCS-HD セットトップ」、「NetCS-HD デスクトップ」、「NetCS-HD 他社接続ゲートウェー」、「NetCS-HD テレフォニーゲートウェー」を提供する。

NetCS-HD ビデオサーバは、端末管理および端末間接続を行うサーバ装置。NetCS-HD セットトップは、本体、HD カメラ、マイク、スピーカで構成された専用会議端末(ディスプレイは含まず)。NetCS-HD デスクトップは、PC 向けのデスクトップクライアントソフトウェア。NetCS-HD 他社接続ゲートウェーは、H.323 や SIP との接続を提供する装置。NetCS-HD テレフォニーゲートウェーは、IP テレフォニーシステムとの接続を行う装置。

NetCS-HD テレフォニーゲートウェーは、次期バージョン(2009 年 3 月発売予定)での対応となっている。また 2009 年第一四半期には、NetCS-HD ASP サービス事業の開始も計画しているという。

NetCS-HD の価格は、HD 対応 10 拠点会議システムで税抜き 3200 万円。SE 費、据付調整費、保守費を含まない。3 年間で 3,000 システムの販売を計画している。

* NetCS-HD 発表記事 定期レポート Vol.10 No.14 2008 年 7 月 31 日号 p3

シスコの Telepresence、NTT 東西の NGN 商用サービスに対応、従量課金でテレプレゼンス通話が行える

シスコシステムズ合同会社(東京都港区)の発表によると、同社の「Cisco Telepresence(シスコテレプレゼンス)」が、東日本電信電話株式会社(東京都新宿区)と西日本電信電話株式会社(大阪府中央区)の NGN(次世代ネットワーク)商用サービスに対応した。

シスコは同社の「シスコ IOS ソフトウェア」に NTT の UNI(User-Network Interface)対応の機能を実装し、NTT の UNI にシスコのルータやスイッチを直接接続することを可能にした。これによって、商用 NGN サービスに Cisco Telepresence を接続し、テレプレゼンスでの会議を従量課

金制にて利用することができる。

シスコ IOS ソフトウェアは、ルータやスイッチに実装されているネットワーク制御用 OS(オペレーションシステム)。また、UNI は、通信事業者設備とエンドユーザ設備とを接続するインターフェイス仕様を指す。

ギンガシステムソリューションの WarGate601、3 地点内蔵 MCU に対応、またミーティングネットサービスの予約が Web でも対応、直前予約が可能に

株式会社ギンガシステムソリューション(東京都中央区)は、同社の IP テレビ電話「WarpGate601(ワープゲイト 601)」の新オプション機能として、「3 地点通話機能」を 10 月 2 日より販売開始した。

これまで 3 地点以上でのテレビ会議接続を行う場合は、同社が提供している予約制の「ミーティングネットサービス」を利用する必要があったが、今回発表された 3 地点通話機能を WarpGate601 に搭載することでサービスを利用せずに 3 地点会議がすぐに行える。



WarpGate601

3 地点通話機能は、WarpGate601 のソフトウェアをバージョンアップすることで対応する。オプション料金は、標準価格 210,000 円(税込み)。IP テレビ電話 WarpGate601 は、標準価格 239,400 円(税込み)。

ミーティングネットサービスは、IP 及び ISDN に対応した



多地点テレビ会議サービス。開始 30 分前までに電話予約すると会議が行えるが、10 月 2 日からはミーティングネット予約サイトサービ

スが開始。Web からの開始直前の予約も可能になった。また 10 分単位での会議予約や、“よく使う人”、“いつもの会議”といった、予約を簡単にするためのサポート機能も提供する。

株式会社ギンガシステムソリューションは、平成 17 年 9 月設立。事業としては、ASP サービス、POS レジ、POS システムの開発及び販売、コンサルティング業務、電気通信事業などを行っている。株式会社ジー・コミュニケーション(愛知県名古屋市)が 80% 出資している。

* ギンガネット関連記事 Vol.8 No.28 2006 年 10 月 31 日号 p4-p7、

* WarpGate601 関連記事 Vol.9 No.17 2007 年 9 月 30 日号 p2-p3

業界ビジネス動向-国内

ポリコムジャパン、Siren 7 のライセンスフリーを発表、HD Voice の普及を促進

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、ワイドバンドコーデック「Siren 7 (ITU-T G.722.1)」をライセンスフリー(無料)で提供することを発表した。同社では、ライセンスフリーのコーデックを「Siren 14 (ITU-T G.722.1 Annex C)」から Siren 7 へ拡大することになった。

Siren 7 は、G.722 や L256 などの従来のコーデックの半分もしくはそれ以下のビットレートでより品質の高い 7Khz の音声を実現している(通常の電話は 3.4khz。米ポリコム社サイトの Siren™/G 722.1 のページでは、Siren 7 の 7khz は FM ラジオ並の音声品質と説明されている。Siren 14 は、14khz。)。Siren 7、Siren 14 は当初独自コーデックとして同社が技術を

開発。その後 ITU-T において標準化され、他メーカーでも採用されているコーデック。

「ライセンスフリーにすることで、世界中の企業がライセンス料を支払うことなく当社の Polycom HD Voice を利用できるようになる。Polycom HD Voice を使用すると、明瞭かつ実際の会話のような音質で流れるような自然な会話が可能になり、言葉の陰影がはっきり聞き取れるため、会話の理解度が高まり、生産性が向上する。」(ポリコムジャパン) 同社としては採用実績の多いこの 7khz を無料で提供することで Polycom HD Voice の採用を促進したい考えだ。

導入・利用事例

NEC、ダイキン工業に役員会議システムを導入

ダイキン工業株式会社(大阪府大阪市)は、日本電気株式会社(東京都港区、以下 NEC)の開発した「UNIVERGE 役員会議ソリューション」を導入した。NEC が 9 月 30 日のプレスリリースにて発表。



役員会議室イメージ

ダイキン工業では、同社が掲げる独自のコーポレートガバナンスのひとつとして「経営マネジメントシステムの革新による戦略経営とスピード経営の強化」を進めている。今回導入したシステムは、この流れをくむもので、グローバル経営を推進する同社の迅速かつタイムリーな意思決定をさらに加速すると考えている。NEC は、ダイキン工業と共同で、会議における運用プロセス分析の結果を最大限反映したシステム実現の検討を実施し、導入に至ったという。海外拠点の役員には、英語版クライアントソフトを提供

することで、システムが英語対応した他、同時通訳ブースもあわせて導入した。

NECは、今回の実績をもとにUNIVERGE役員会議ソリューションにおいて、セキュリティ強化や多言語対応を行うなどグローバルに展開していく考えだ。

今回のソリューションは、「C&C ユーザーフォーラム&iEXPO 2008」(会期11月11日～13日 東京国際フォーラム)においてダイキン工業より講演される予定。

ダイキン工業株式会社

<http://www.daikin.co.jp/index.html>

*役員会議ソリューション 製品記事 Vol.9 No.17 2007年9月30日号 p3-p5

第2回りんくう国際医療フォーラムで、HDビデオ会議システムと同時通訳システムを使った医療通訳の実演

りんくう総合医療センター・私立泉佐野病院(大阪府泉佐野市)で行われた「第2回りんくう国際医療フォーラム」(2008年6月14日)での医療通訳の実演で、ライフサイズ社(LifeSize)のHDビデオ会議システムと、ボッシュ社(BOSCH)の同時通訳システム「インテグラス」が採用された。両システムは株式会社東和エンジニアリング(東京都台東区)が提供した。

同病院は、関西空港に近く国際外来を設置。多くの外国人患者を受け入れ通訳サポーターによって対応しているが、さらに多くの言語に対応する必要があるという。今回医療通訳の重要性を訴求するためにフォーラムの中でライブによる医療通訳が行われた。同病院は、医療通訳でのHDビデオ会議システム活用が高い評価を示したとともに、今後は災害時の医療現場と本部とのコミュニケーション手段としても有効ではないかといった趣旨のコメントを出している。

りんくう総合医療センター・私立泉佐野病院

<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/>

翔洋学園高等学校、HDビデオ会議システムを使った遠隔個別指導環境を茨城県内外の10ヶ所に導入

翔洋学園高等学校(茨城県日立市)は、ライフサイズ社のHDビデオ会議システムを、日立本校並びにいわき学習センターなど茨城県内外の10ヶ所に導入。生徒と担当教科の先生とのコミュニケーションが可能な遠隔個別指導環境を構築した。株式会社東和エンジニアリング(東京都台東区)がシステム構築した。



HDビデオ会議システムを活用した遠隔個別指導

翔洋学園高等学校(茨城県日立市)では、教師と生徒の心と心が通じ合う対話を大切にした教育を実践するため、日本で初めてという直営の学習センター方式を取り入れた広域通信制・単位制高校。開校当初から各学習センターにおいて個別指導によるレポート学習支援を行っており、今回HDビデオ会議システムを導入したことで、生徒がいつでも教師と双方向で質問できる環境を実現した。

翔洋学園高等学校

<http://www.shoyo.ac.jp/>

業績発表

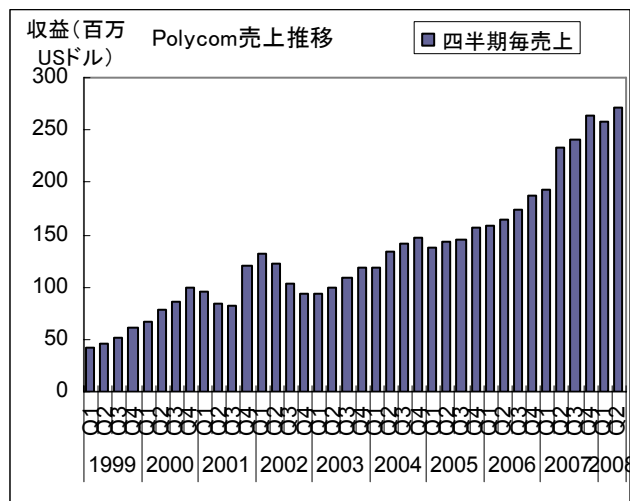
2008年4月-6月期(第二四半期)

米ポリコム社

米ポリコム社が2008年4月-6月期(第二四半期)の業績を7月16日に発表。第二四半期の売上は、2億7160万USDの過去最高を計上した。2007年同期の2億3390

万 USD に比べ 16%増。また音声会議システムの売上は、四半期として社創業以来初の 1 億 USD の大台に達した。

2008 年は第一四半期、第二四半期で 5 億 3050 万 USD を計上。前年同期では、4 億 2660 万 USD。



2 億 7160 万 USD の売上構成は、ビデオ会議システムが 52%、ネットワークシステムが 10%、音声会議システムが 38%。また台数ベースではビデオ会議端末は、20,845 台、デスクトップシステムは、11,926 台出荷した。

地域別では、北米が全体の売上の 54%、EMEA(欧州、アフリカ、中東)が 26%、アジア太平洋が 17%、ラテンアメリカが 3%。

好調な売上げの伸びは、最近の原油価格の高騰のあおりを受けた出張費などのコスト増、そしてそれに伴う ROI の向上、企業の地球温暖化対策、企業活動のグローバル化などが背景にあると同社では分析。

テレプレゼンスシステム(RPX、TPX)や HD システム(HDX 9000 など)の売上げが好調という。「ビデオ会議システム全体の売上げのうち、テレプレゼンスや HD システムの割合は 50%を超えた。SD 端末から HD 端末へのシフトは急速に (rapid pace) 進んでいる。」(同社業績発表会 CFO Michael Kourey 氏)

同社が開催した業績発表会では、タイムワナーやデロイト(Deloitte)のテレプレゼンスシステム導入例や、医薬品メーカーでは、10 台の RPX と数百台規模の HDX シリーズの導

入例、米国内大学でのキャンパス間をつないだテレプレゼンス授業、さらに米政府(国防関係部門)では HD の解像度を利用した顔認識への応用の可能性や相互接続性などからテレプレゼンスを採用したといった事例が紹介された。

「米調査会社ガートナーによると、テレプレゼンス市場は 2010 年には、15 億 USD 規模になるだろうという予測がでている。」(同社業績発表会 CEO Robert Hargerty 氏)とテレプレゼンス市場の今後の展開に大きな期待を見せる。

セミナー・展示会情報

<国内>

ITpro EXPO 2008 Autumn

日時:10月15日(水)-17日(金)

会場:東京ビッグサイト 東4-6ホール、会議棟

主催:日経BP社

内容・申込:<http://itproexpo.jp/>

ビジュアルコミュニケーションパビリオン出展企業(展示の他、日経BP社専門記者及び出展各社の講演あり):

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2008a/organizer/visual.shtml>

ビジュアルコミュニケーション special 講演:

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2008a/forum/list.html?c=f10>

*シード・プランニングの基調講演あり。「テレビ会議/Web会議の活用実態と今後の製品動向」

グリーン IT 活用ソリューションセミナー

～ 世界的に注目されている「グリーン IT」へ、いち早く取り組むためには?! ～

日時:10月23日(木)13時30分～16時50分(受付13時～)

会場:沖電気工業株式会社 愛宕ショールーム

主催:沖電気ネットワークインテグレーション株式会社

詳細・申込:<http://www.okinw.co.jp/event/2008/081023.html>

*ビデオ会議ソリューションのプレゼンもあり。

Excellent Communication Summit 2008

日時:10月24日(金)10:00～18:30 (受付開始 9:30～)

会場:株式会社大塚商会 本社ビル

主催:株式会社大塚商会

協賛:イー・モバイル株式会社 / 株式会社ウィルコム /

NTT コミュニケーションズ株式会社

KDDI 株式会社ソフトバンクテレコム株式会社 /

ソフトバンクモバイル株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社 / 日本タンバーク株式会社 /

日本電気株式会社

ポリコムジャパン株式会社 / マイクロソフト株式会社 /

ヤマハ株式会社

UQ コミュニケーションズ株式会社 (アイウエオ順)

内容・詳細:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/ecs/>

無料 Web セミナー**WebEx を使おう！基礎の基礎！**

～ まずはここから WebEx のはじめの一步 ～

日時:11月6日(木)14:00-15:00

会場:Web セミナー

主催:ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_110608.html?SourceId=hpg**IIJ モバイルネットワークフォーラム**

～ モバイルで実現する次世代のVPN 活用法～

日時:11月6日(木) 14:00～17:00(開場 13:30)

会場:ホテル 名古屋ガーデンパレス 2 階 鼓の間

主催:株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ 名古屋支社セミナー事務局)

詳細・申込:

<http://www.iiij.ad.jp/news/seminar/2008/sm081106.html>

*アエストラ(ae コミュニケーションズ)が WEB 会議ソリューションで出展。

iEXPO 2008

日時:11月11日(火)～13日(木) 10:00～18:00

会場:東京国際フォーラム ホール棟

主催:NEC、日経 BP 社

詳細・申込:<http://www.nec.co.jp/uf-iexpo/>

*通信事業者向けネットワーク製品・ソリューション

<http://www.nec.co.jp/uf-iexpo/iexpo/zone.php?p=6>

(会議システム系のソリューションの展示あり。)

最新 HD ソリューションセミナー**Polycom VC2 ～ ビジネスの変革を加速するビジュアルコミュニケーションの新しい世界～**

日時:11月12日(水)14:00～(開場:13:30)

会場:ホテルニューオータニ ザ・メイン アークード階「悠の間」(東京)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/081112/>

<海外>

PUG Conference 2007(Polycom User Group)

日時:10月19日(日)～22日(水)

会場:アメリカ フロリダ

主催:ポリコム・ユーザー・グループ

詳細:<http://www.pug.com/>

* ポリコムのユーザーカンファレンス&展示。

Wainhouse Research CSP Summit - Boston 2008

日時:10月27日(月)

会場:アメリカ ボストン

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:<http://www.wainhouse.com/cspsummit/>**IMTC 2008 Forum****“ Technology Meets Customer Needs – Unified Communications Supporting Business.”**

日時:11月12日(火)～13日(木)

会場:St. Regis Hotel、サンフランシスコ

主催:IMTC(International Multimedia Telecommunications Consortium)

詳細・申込:

http://www.imtc.org/events/2008_11_12_fall_forum.asp**VoiceCon San Francisco 2008**

日時:11月12日(火)～13日(木)

会場:MOSCONE North Convention Center、サンフランシスコ

主催:A United Business Media company

詳細・申込:

<http://www.voicecon.com/sanfrancisco/>**InfoComm Asia 2008**

日時:11月19日(木)～21日(土)

会場:香港、the Hong Kong Convention & Exhibition Centre

主催:InfoComm Asia Pte Ltd.

詳細:<http://www.infocomm-asia.com/>

*会議システム関連のパビリオンも設置予定。(IMCCA 主催)

編集後記

今回も読み頂きまして有り難うございました。レポートしていない記事がまだいくつかありますので次回以降掲載いたします。

次回も宜しくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介